

Chapter 3 A primary history perspective on the Australian Curriculum

オーストラリアン・カリキュラムについての初等歴史科の見方

鈺悠介（東広島市立高屋中学校）

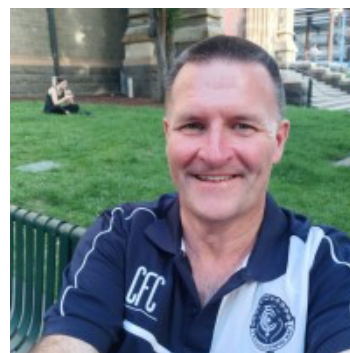
【David Boon】

・タスマニア教育省の Principal Education Officer。33 年間のキャリアの中で多数のカリキュラムやプロフェッショナル・ラーニングに携わってきた。

・タスマニア大学で教育学の学士号を、カーティン大学で科学教育の修士号を取得。

・オーストラリアン・カリキュラムの歴史科のフレーミング・ペーパーの開発に関わる。

・代表的な著作：“*Place and Time: Explorations in Teaching Geography and History*”(Tony Taylor, Carmel Fahey と Jeana Kriewaldt との共著)



【用語】

Teaching for Understanding framework：「理解のための教育」枠組み

Coalition of Essential Schools：エッセンシャル・スクール連盟

achievement standards：達成スタンダード

ecological validity：生態学的妥当性

general capabilities：汎用的能力

possibility thinking: 可能性思考

【論点】

・探究のスキルや知識を測る継続的な質的調査にオーストラリアの教師の貢献の余地があるとされるが、こうした調査を実施する上での困難さはどこにあるか。

・探究を通じた継続的な評価であれば、歴史的思考・理解と汎用的リテラシーのどちらを測っているかという問題についてより区別できると本章著者は予想しているが、その必然性はあるのか。

I 前書き

☆ 2011年の「オーストラリア・カリキュラム：歴史」

・オーストラリアの初等教育において、社会科学や人文科学といった幅広いカリキュラムの外に、独立した学問として歴史を学ぶ。

・オーストラリアの初等歴史教育のための全国的に認められた枠組み。

- ◇ (概要)本章では、初等教育において歴史のオーストラリアン・カリキュラムを教える上での重要な示唆を、形成的・総括的評価、汎用的能力、教育学的アプローチといった幅広い潮流を考慮して提示する。

II 概念的理解の重要性

- ◇ HaSS カリキュラムの導入によって歴史に対する学問的アプローチと統合的・学際的アプローチの対立が再燃。※本章の著者は、どちらの場合においても学問的思考の概念に探究が焦点を当てる必要があると主張。
- ◇ 学問的思考の概念：資料・継続性と変化・原因と結果・意義・視点・エンパシー

III 主要な歴史概念を評価する際の形成的・総括的評価の役割

- ◇ HaSS カリキュラムの導入によって評価に焦点が当たった。その要因は
 - ・ハーバード大の「理解のための教育」枠組み
 - ・エッセンシャル・スクール連盟
- ◇ 従来のように総括的評価に焦点を当てるのみでは、探究プロセスの役割を十分に考慮しえなかった。理解したことのコミュニケーションに重点が置かれるようになった。カリキュラムの内容よりも「達成されたカリキュラム＝教師がカリキュラムで実際なしたこと」が重要に。
- ◇ 形成的評価と総括的評価を別々のカテゴリーとして見るのではなく、プロセスとしてみる方が良い。同じ評価でも、生徒の今後の学びのガイドになるときもあれば、探究のプロセスの総括的評価にもなる。(例) 生徒の資料の観察とそれによる問いの生成。
- ◇ また、生徒は何が評価されるのか分かっていなくてはならない。「理解のための教育」枠組みを導いた調査群は、生徒と目標と評価基準を共有することの重要性を強調した。
- ◇ 歴史の評価に関する近年の国際的研究は教室での継続的探究から切り離された試験やテストの方法に主に焦点を当ててしまっている。
(例) VanSledright(2015)による評価の「生態学的妥当性」についての言及
- ◇ 探究を通じた継続的評価の調査によるオーストラリア教師の貢献の可能性。

IV オーストラリアン・カリキュラムの「汎用的能力」

- ◇ 個々の学びを考慮した「汎用的能力」が、学びと評価の機会を構造化する更なる助けとなる。
 - ・ 汎 用 的 能 力 : Literacy, Numeracy, Information and Communication Technology (ICT) Capability, Critical and Creative Thinking, Personal and Social Capability, Ethical Understanding, and Intercultural Understanding
 - ・ 「理解のための教育」枠組み:カリキュラムのある領域における探究の焦点が他のカリキュラムの領域と結びついたとき、理解はより強力なものとなる。

- ◇ 歴史は読解や数的能力の両方を発達させる意味ある探究の文脈を提供する。
(例)ある地区の19世紀半ばと20世紀半ばの写真の比較⇒文章やパラグラフの生成
歴史の著作の文章の構造化やキーワード整理
- ◇ 生徒が説得力ある文章を作成する上で、自分の考え方や解釈の仕方を生徒自身が分析することが重要。様々な観点を考慮することで、生徒はエンパシーや汎用的能力の批判的・創造的思考を発達させられる。
- ◇ 批判的思考へアプローチすることは、視点(perspectives)により気づかせることにもなる。著者の視点がどのようにテキストを形成したか、また当時のテキストの読者が異なる視点や理解の仕方をしてきたことへの理解の必要性。
(例)アポリジニにとって、3次元のものを2次元に表す習慣や、文章を左上から右下に読む習慣がなかったことを歴史を通して学ぶこと。
- ◇ 生徒はアートに対しても次のような批判的問いを持つようにする必要がある。
 - ・誰がこの作品を作ったのか。
 - ・作った目的は何か？
 - ・想定されている観客は誰か？
 - ・その絵の人々は何をしていて、メッセージを伝えるのにどう寄与しているか？
 - ・それは著者や観客にとっての当時のリアリティーをどのような形で表象しているか？
 - ・その絵はどのようにフレームされ、そのフレームの外側にあるものは何か？
 - ・前景と背景にあるものは何か？
 - ・省かれたり付け足されているものは何か？なぜか？
- ◇ 「可能性思考(possibility thinking)」を通じて、多様なあらゆる観点に開かれた思考を持たせる必要もある。
 - ・想像力豊かなテキストは、歴史的探究に移行するスキルの基礎となる。物語を通して、人々の行動や動機、原因と結果、継続性と変化などを学べる。
 - ・フィクションの文章もまた初等教育者に有効なアプローチを提供する。(例)探究に先立って、『Tom Appleby: Convict Boy』を用いて第一船団の時代の人々、出来事、社会、日常生活について理解させる。
- ◇ 歴史フィクションを書かせることは、生徒の歴史の理解や誤解を評価するのに有効なツールとなる。
- ◇ リテラシーと同様に数的能力の開発は、歴史と他のカリキュラムの領域の学習に関連性を持たせた時に効果的になる。(例)4桁の数字や10進法の理解が、年表の作成によって文脈性を持った理解となった。
- ◇ 「探究とスキル」ストランドと密接に関連する能力が、ICTである。(例)オンラインのマインドアプリを使って生徒の考えを視覚的に整理・構造化し、問いを作成して調査を計画した。など

V 探究への教育学的アプローチ

- ☆ 歴史と視覚芸術の両方の教育学に影響を与えたアプローチの一つに、「理解のための教育」枠組みに密接に関連した「可視的思考」がある。

(例)

- ・「どうしてそう思ったの (What makes you say that?)」ルーティン：生徒が、ある建物が古いと言ったときにこのルーティンを用いると、「レンガが古く見えるし、レンガの間のものですり減っているから」と生徒が答えられるようになる。
- ・「見る、考える、不思議に思う (see, think, wonder)」ルーティン：画像の中で「見た」ものを全て記録し可能な証拠を集める。そのあと、「考える」段階では証拠の解釈を検討し、「不思議に思う」段階では、調査のためのありうる質問を考える。
- ・「視点の輪(circle of viewpoint)」ルーティン：登場人物のあらゆる視点をブレーストーミングし、その観点から彼らが考えていたことについて論述し、それらの観点から問いをたて、それらの観点を考慮した結果として持った新しい考えを記録する。
- ・「こう思っていました、今はこう思います (I used to think...Now I think...)」ルーティン：以前の思考ルーティンで収集した情報などをもとに、自分の考えがどのように変化したか振り替えさせる。最終作品からだけでは得られない評価の有益な情報を得られる。

VI 結論

- ☆ オーストラリアン・カリキュラムは、概念的理解の向上、成果や過程の形成的・総括的評価、識字能力や計算能力などの汎用的能力の向上、探究スキルの発達などの点でオーストラリアの初等歴史教育に影響を与える可能性を示しているが、これらの影響の度合いや程度を完全に把握するためには、さらに多くの研究が必要である。